

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100078		
法人名	社会福祉法人 久栄会		
事業所名	グループホームさざんか園		
所在地	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町大曲3475-1		
自己評価作成日	平成24年2月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成24年2月27日	外部評価確定日	平成24年3月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・デイサービスと小規模多機能とは通路を設けているので、自由に介護者と共に出入りされている。外に出ている方があればデイ職員、小規模職員が気付き、異常があればホームに報告が入る等の共有状況が作られている。</p> <p>・デイサービスの音楽療法、ゲーム等の参加、ボランティア活動の見学、園児との交流、小規模多機能でのカラオケ大会(毎週水曜日)に参加させてもらい、利用者同士の交流など楽しみも多く職員のレベル向上のアイデアをもらってきている。</p> <p>・利用者さんが亡くなられた後も同地区の家族様とは交流が続き地域交流の手助けや運営推進会議の委員、園のイベント等の参加もされ家族様との信頼関係ができています。</p> <p>・他の施設等から来られた利用者様が向精神薬を服用されている場合は医療関係者と家族様との話し合いを持ち、なるべく薬に頼らない支援を職員全員で考え、研究発表等にも繋げている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>高速道の入り口の国道385号線に面し、北に脊振山系を望み、南に川原川(田手川上流)のせせらぎが聞こえる自然環境に恵まれた立地条件の中に有り、広い敷地には、小規模多機能事業所とデイサービス事業所が併設されている。小規模多機能事業所とは、ウッドデッキのバルコニーで行き来が出来、入居者には閉塞感がなく、各居室からもバルコニー等に自由に入出入り出来るフラットな設えとなっている。三事業所との交流も密で、音楽療法、カラオケ会、ゲーム大会等連携を図って、職員の介護レベルアップに努力している。防災では、行政からの警報器を敷地内に設置して、週1回警報サイレンが鳴り、地域を含めた安全を確認している。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時に事務所に上げている理念を唱和し職員全体で共有できるようにしている。また、新人職員には理念の説明、確認を行っており理念を理解するように努めている。	運営理念を毎日朝礼時に全員で唱和して、職員間で共有と確認が出来る取り組みがなされており、日々の支援に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員全員が地域での買い物や散髪など地域との付き合いを心掛けている。また、自治会の活動の参加、子供クラブの交流会と施設のイベントには回覧板をまわし参加を呼びかけている。	自治会に加入し、地区総会や公民館清掃・子供クラブの行事等へ利用者と職員で積極的に参加している。季節毎に消防団の防火訓練を事業所に出向いて実施してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は地域のクリーンデイの参加や公民館の清掃や協力して取り組んでいる。また、家族や認知症介護の講演も地域に呼びかけ理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回は会議を実施し各事業所の状況報告や地域との関わりの協力を得ている。今年も地域消防団の協力で防火訓練を行い助言を得ることができた。	運営推進会議を2ヶ月に1回実施しており、利用者の日頃の状況や行事の報告、職員の動向等を説明し、事業所のサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会議に地域包括支援センターの職員が参加されケアサービスの状況を把握され事業所の変化の際は直接電話で相談しあっている。	地域包括支援センターから2ヶ月に1回の運営推進会議への出席があり、ケアサービスの状況の把握もされ、また、中部広域連合にも積極的に出向いている。町からの要請で、認知症についての広報劇(シアター)も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行っておらず自室や園外には自由に入出りできるようにしている。また、点滴や医療的に拘束を行う場合は事前に家族や医者に相談し同意書を得るようにしている。今は該当者なし。全体勉強会で年1回実施している。	全ての職員が身体拘束の弊害を理解しており、拘束はしていない。日中の施錠もされおらず、利用者の自室からはバルコニー等へ自由に行き来が出来、見守りによる支援を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体勉強会での議題にしたり講演に来てもらい全員で共有している。また、各事業所で独自のマニュアルを作成し虐待防止への理解や注意を認識している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学んできた知識を説明書や資料で共有している。また全体勉強会でも講義をしてもらい徹底を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書や重要説明書など不明な点を尋ねながら理解納得を得ている。また退去時についても相談があり、説明、理解をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や担当者会議にて家族の意見を聞いたり面会時に意見を聞いている。問題があればカンファレンスにより討議し意見要望を共有している。	家族会が組織されており、家族の要望や意見を汲みとる仕組みが作られている。また、行事開催時にも多数の家族の参加があり、イベント内容等にもアイデアを出されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスや全体勉強会で職員の発言する時間をとっている。また半年に1回は人事考課として三者面談を行いお互いの意見や相談を聞く機会を設け検討し反映している。	月1回のカンファレンスや法人内事業所の全体勉強会で職員の要望や意見を聞いて、業務運営に反映させている。又、年2回三者面談を実施して双方向の意見を聞き、人事考課もおこなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の勤務態度、実績等を把握し人事考課により賞与や給与に反映されまた職員との面談により働きやすい職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の為の法人の内外研修をはじめ研修支援制度を取り入れて外部研修や法人内の毎月の勉強会における研修を行っている。新人研修、中堅研修実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に3回は他施設との発表会に参加し事例を聞いたりグループワークなどで意見交換や討議などで良いと思う物を皆で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所者は、法人のデイサービスや小規模多機能利用者が多く、合同の行事等で顔なじみの関係が出来ており、新規の方にもサービス利用する段階で本人、及び家族から不安、要望を聞き、安心して頂けるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所者は、法人のデイサービスや小規模多機能利用者が多く、新規の方にも利用開始する段階で、本人、家族、園長、主任、ケアマネジャーを含めた担当者会議を行い、家族が困っている事や不安な事、要望に耳を傾け、信頼関係を築き上げるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況に応じた支援を提供する為に、法人内の居宅サービスに相談できる体制が出来ており、本人や家族の要望に応じた支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームを家族ととらえ、食事の準備や後片付け、自室の掃除等に参加して頂き、意欲の向上に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の園だよりにひとことコーナーを作り、本人の近況を家族へ報告したり、家族会やふれあい祭りなどの年間行事への参加を呼び掛け、家族との繋がりや家族間の繋がりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎日、近所のショッピングセンターを利用して。また美容室や掛かりつけ医院などは地元へ足を運んだり、家族へお願いする等、支援に努めている。	かかりつけ医院への受診や町内ショッピングセンターへの買い物同行やデイサービスへの参加により、馴染みの人との交流が途切れる事のないよう支援している。又、馴染みの美容院や理髪店の利用を家族にお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を大切に、難聴や言語障害の方には職員が間に入り孤独が無い様なテーブルやソファの位置を配慮する等、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には、お見舞いの実施また、問合せ相談には親身になった対応を行っている。施設の行事参加や運営会議の委員にもなっていただく呼びかけをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の会議、家族会での担当者会議の際に利用者様の嗜好、習慣、家族との関わり等お聞きし、実際のケアに繋げている。	毎日の行事について、利用者の希望や意見を尊重して1日の行動予定を立てて支援している。意向の把握が困難な利用者には、家族を通じて希望等を聞いてケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中で嗜好、習慣を把握したり、面会者との面談、家族会、世間話の中より情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の共有、情報の変化の伝達等、医療連携時の情報の共有で皆で現状の把握の強化を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一回、ケアプランに基づくモニタリングをスタッフ全員で実施、気づき、反省点、支援内容についてのアイデアを出し現状に合わせた介護計画書を作成している。	介護計画は3ヶ月毎に見直し、本人、家族、関係者と話し合い、モニタリングを職員全体で実施し、利用者本位の支援を実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の案所を取り上げカンファレンスの中で検討また面会の際等に家族にも報告相談、介護計画に生かしていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況や一人一人ニーズも異なる為共通のサービスと個別のサービスを組み合わせ柔軟にサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法事やお盆の時には地域のお寺のお坊さんに来て頂きお経をあげてもらったり法話を聞いたりしています。地域のクリーンデイにも参加して協力をしたり地域住民との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族の希望を重視して医療機関を決めている。訪問看護ケアとして、往診・点滴・注射に来てもらいケア記録をスタッフ全体で取り組み報告して医師との連携を図っている。	受診は、本人や家族等の希望を大切に、これまでのかかりつけ医の受診を支援している。緊急時等には協力医院の24時間体制が確立されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアチェック記録をつけて取り組み、日常の変化や気づきについては看護師に伝えて相談している。定期的に行っているカンファレンス・勉強会で問題点を話し合い情報交換をして取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は管理者が行き、病院関係者から状況説明を受けている。スタッフも再三お見舞いに行き病院関係者と情報収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の面会の時には、重度指針からターミナルを想定した話し合いを早めの段階で家族に説明するように心がけており家族の意向を常に日頃から把握してチームで支援に努めている。	利用契約時に、重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族等と話し合いをしている。又、重度化した場合は再確認を行い、事業所の出来得る支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急の対応については全員が消防署にて毎年講習を受けて実践力を身につけるように努めている。勉強会やカンファレンス外部での研修を受けて技術や知識の向上を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと年に2回以上の火災予防避難・夜間想定避難訓練を利用者と共にスタッフ全員参加で行っている。また地域住民の協力もあり、多くの火災訓練に参加して頂いてます。	消防署の立会いのもとに年2回の火災予防、避難訓練、夜間想定避難訓練を実施している。又、地区消防団の訓練を事業所でも実施されている。地域のサイレン吹鳴塔も事業所敷地内に設置され、防災時の対応の万全を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さん個人を尊重し、言葉かけや対応に失礼が無い様に注意を払っています。個人情報事は事務所にて管理を行っています。	利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をして支援している。勉強会にて接遇研修等計画的に行い、個人情報についても管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの言葉に耳を傾け希望にそう様にしていきます。会話の中でやりたい事や希望を聞きだしやすく自己決定出来る様支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝の朝の会でお茶を飲みながらその日1日の日程を説明し『何かしたい事はないですか?』外出の際は『どこか行きたい所は無いですか?』等利用者さんの希望を聞きながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に地域の美容室へ行っています。またご自分のメイク道具でお化粧をして頂いています。髭そりや爪切りも誘導し行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんに今日食べたい物を聞き食事の中に取り入れたり、食材切りや盛り付け等手伝って頂いています。食事が進まない時は盛り付けを変えたりおにぎりにしたり等食べて頂けるよう工夫しています。	利用者にその日の希望を聞いてメニューを決定し、食材の買い出しをしている。買い物には利用者を同伴し、調理や後片づけにも参加しやすいキッチンの設えになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成の献立を参考に毎日の食事を考え提供しています。その方に合わせた食事形態(刻み・ミキサー)にし食べやすいようにしています。水分摂取量も時間別にボードに記入しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きを促し、義歯の洗浄やうがい等、その方に必要な介助をしています。夜間は義歯を外していただき定期的に洗浄液を使い清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的に排泄を促し、排泄チェック表に記入し利用者の排泄状態を把握する。その後トイレ誘導に役立ったり、オムツの量の削減や自立支援に繋がっています。	排泄チェック表で、一人ひとりの排泄状況を把握し、支援している。日中はトイレ誘導を実践し、個々人のオムツ使用を減らすための取り組みや自立支援に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食は玄米にしています。食物繊維の多い食事を心掛けるとともに、乳製品や水分(お茶ゼリー、ジュースなど)を多く摂取して頂き、音りハや散歩など適度な運動を取り組んで排泄チェック表で便の状況を把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者が入浴を拒否される時は無理に入浴させず時間を置いて声かけ、清拭、足浴を行ったり、次の日に回したりしています。また入浴時は利用者とのコミュニケーションをとり楽しく入浴しています。	基本的に2日に1回の入浴ですが一人ひとりの希望に沿って入浴や足浴・清拭等で支援している。入浴を嫌がられる利用者には無理強いをせず、納得されたうえで支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体操などでしっかり運動して頂き安眠されるよう努めている。利用者の体調に合わせて、疲れている時は食後など休みたいと訴えがある時はソファや自室、畳の上で休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は薬入れで仕分けをして事務所に保管し、だれがどんな薬を飲んでいるか看護チェック表で理解し、薬は利用者へ手渡しし、最後まで飲んで頂いているかしっかり確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、食器拭きなど自分の役割を持って頂いています。月の行事や合同レクリエーション、歌の会など歌ったり体を動かす事で楽しみ、気分転換を行っています。食事でも利用者の思いに応え料理しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物やドライブなどの外出は利用者の希望により実施している。また弁当などを注文し違う楽しみが出来るように取り組んでいます。地域の清掃活動や行事ごとに出向き、地域の方々の交流を行っています。	利用者は、毎日の買い物に同行されたり、戸外での弁当昼食会やすし店等への外食を実施している。事業所敷地の周囲に散歩コースがあり、花や野菜等四季の移ろいを感じさせる環境づくりをしている。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物ドライブへ行く前に、今日食べたい物等を伺い、歩ける方は一緒に店内をまわり、品物を選んでもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状ではご自分で書ける方は書いて頂いたり、ご家族様からの電話を気になさる方は本人の意思があれば代っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や中庭には花などを飾ったり、壁には居間の季節を感じて頂けるように貼り絵等の飾りをしている。トイレや浴室にはドアに貼り紙をしており、わかりやすいようにしている。	オープンキッチンとリビングが繋がっており、広々としてゲーム等も出来る。高床の畳の間は中庭に面しており、採光も良い。中庭は玉砂利を敷き詰め、足裏刺激の場となったり、プランターに四季の花や野菜の植え付けをして、日々の癒しの環境づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室には自由に入出りできるようになっている。ホールには中庭からの日ざしで日光浴が出来るスペースがあったり、座敷には掘りごたつも設置して面会者や他利用者との団らんができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使い慣れたタンスや仏壇等の馴染みの物を置いてもらい、ご家族様の写真や手紙などを飾られ、居心地良い空間を作っている。	各居室とも明るく、陽射しが良く入り、心地よい空間となっている。それぞれの居室からは、ベランダへ出入りが出来、ゆったり感じる。利用者は使い慣れたタンスや仏壇等を持ち込んで、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ローカには座れるスペースや手すりを設置しており、移動途中でも休息ができたり日向ぼっこができる。また台所はオープンキッチンになっており、利用者とは話を交えながら安全面に配慮しながらの炊事ができる。		

**V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)**  
**※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない